

財団だより

多摩川

1999.3 第81号



イタチ (イタチ科)
体長32cm。みは早よりも
ずっと大きい。夜行性。



'98年12月17日完成した「府中四谷橋」

■多摩川現風景■

(37) 新しい橋の誕生

多摩川の中流域の、左岸側の府中市と右岸側の多摩市、日野市をつなぐ新しい橋「府中四谷橋」が誕生した。「一ノ宮立体」といわれる橋、道路等を接続する一連の立体化工事もあわせて完成し、昨年12月17日、供用が開始された。

京王線の下り電車が多摩川を渡るとき、ちょうど右側の車窓から見える橋である。

高さ61メートルの2本の主塔から斜めに張られた鋼鉄のケーブルが逆さになった扇子の骨のように伸びて橋を支えている。

多摩川の新しい景観である。斜張橋といわれるこの橋の構造は、アーチや箱桁の構造の橋とはまた違った優美さである。

府中四谷橋の完成で、周辺道路の整備も伴い、甲州街道、中央道、川崎街道、野猿街道などの幹線道路との接続が円滑となり、関戸橋付近にみられた渋滞も緩和されるものと期待されている。

このところ多摩川中流域の橋が新しく建設されたり、架け替えされたりして便利になってきている。かつては川の兩岸を結ぶ「渡し」があり、多摩川でも、40近くの「渡し」が橋の完成とともに消えていった。

便利になることと、川の景観を良くすることが両立することがこれからも望まれる。

●関連する財団の研究助成

〈学術研究〉

①多摩川における河川空間の整備に関する基礎的研究
1978年 篠原 修 東京大学 (No.9)

②多摩川における河川敷利用の変遷について
1994年 三井嘉都夫 法政大学 (No.159)

〈一般研究〉

①多摩川流域平野の地理学的研究—地形分類と渡過点との関連について
1979年 内田和子 都立福生高校 (No.4)

②橋梁による多摩川の地域文化の変貌と環境破壊の調査
1981年 石井作平 たまがわこども文化の会 (No.14)

多摩川散歩

■鳩の巣周辺散策まっぷ■

鳩の巣商店組合 原島 俊二

鳩の巣は青梅線の終点奥多摩駅の2つ手前、小河内ダムから約8キロほど下流に位置し、その川は深いV字谷を形成しており、秩父多摩国立公園の一つの景勝地として古くから知られています。夏はキャンプの若者やファミリー、春、秋は登山者やハイカーそして小中学生の野外学習の場としてもにぎわっています。

しかしこの頃では健康ブームもあって中高年のウォーカーがたいへん増えて参りました。

「鳩の巣散策まっぷ」はそんなウォーカーに利用してもらおうと鳩ノ巣商店組合（会長佐久間正好15軒）が、地元の画家西原直紀さんに依頼して作ったものです。観光地としての鳩ノ巣の他、静かな山里に住む人達の暮らしを垣間見るようなコースを紹介したり、また地元の人もあまり行かない多摩川の支流の溪谷、そして川沿い

の遊歩道を歩いて隣の古里駅、白丸駅へのコースも載っています。また信仰深い山里の人達が今も毎日の暮らしの中で大切に守っている熊野神社、将門神社、お不動様、お稲荷様、薬師様、水神様、金比羅様も網羅して“山里の大神様めぐり”も人気があります。

奥多摩へ行くときは青梅線の利用をお勧めします。青梅駅を過ぎると典型的な河岸段丘とその中をゆったりと流れる多摩川を車中から見ることができ、御岳駅を過ぎると電車は一駅ごとに高度を上げ、多摩川の流れは急を増してはるか下を行きます。

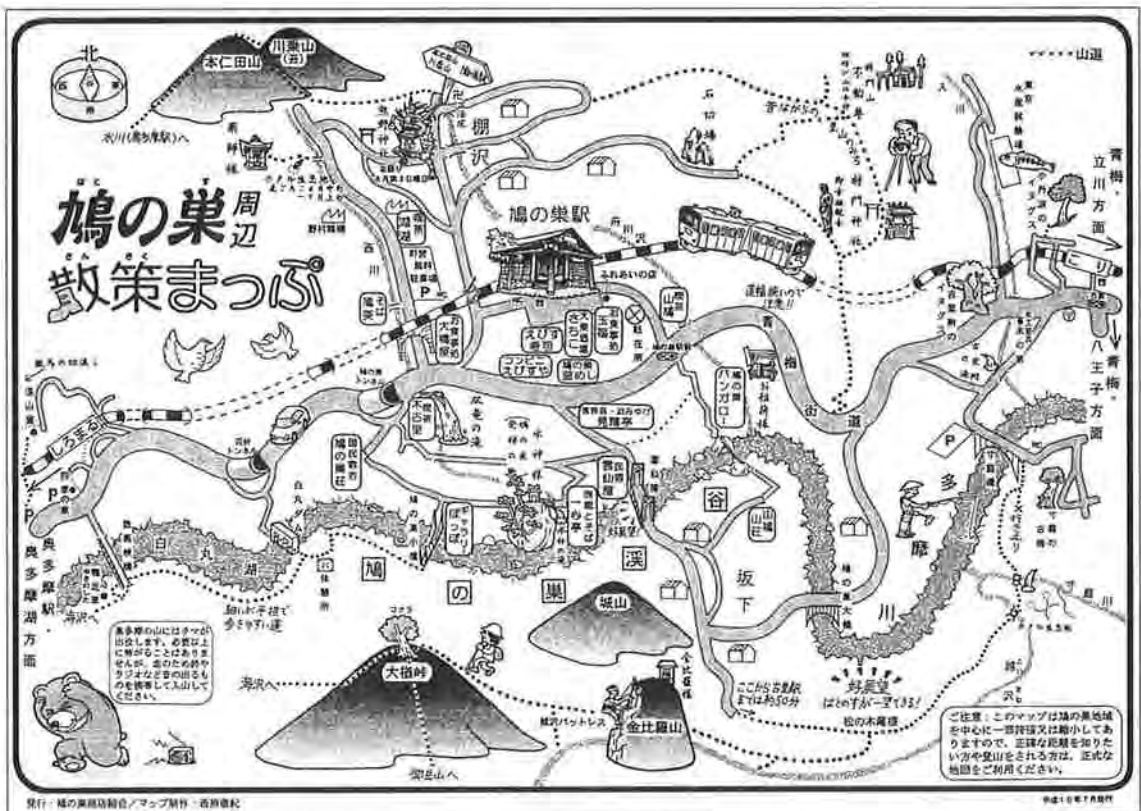
■お問い合わせ先：鳩の巣商店組合

窓口 喫茶山鳩（鳩の巣駅前）

TEL：0428-85-2158

FAX：0428-85-2160

マップは商店組合加盟のお店で無料で配付しております。



▲「鳩の巣周辺散策まっぷ」

私と多摩川



多摩川兵庫島公園内に設置されたバリアフリーのトイレ
('98年4月)

世田谷区地域福祉を考える会事務局長 石田 恭子

東京に住んで40年余り、どんな時に、多摩川を意識したのか、じっくり考えてみた。

いくら考えてもなかなか思いつかない。

しかし、電車に乗っている時、多摩川が目に入ると、自然に心の中で「行ってきます・たがいま」と思う。私の気持ちの中で、多摩川を、いや川をこえることは、外へ（遠くに）出ていく思いなのだ。

それでは「毎日、川を渡って通勤・通学をしている人はどうなるの」といわれればそれまでであるが、あくまで私の気持ちの中の事である。

まあこのように、まったくといていいくらい、多摩川を知らない。川を意識したことの無い私が誘われるがままに、2年前“多摩川の源流をたずねる会”に参加し笠取山へ登り、水干に行ってきた。その時水干には、一滴の水もなかった。このことが、ただ思っているだけの川から、色々なことをする川に変わってきたのだと思う。

昨年4月多摩川兵庫島に河川敷水洗トイレが設置された。イベントが行われるので兵庫島に下見に行った。多摩川の源流に行ってみると、せせらぎのような川が、こんな遅い川になっている、始めて多摩川（二子玉川）の川原に立ったのである。車窓から見ていたよりも迫力があるし、広い広い空間でもあった。

河川敷水洗トイレもじつに素晴らしい。又、その中の一つに、障害者用水洗トイレもある。

これならばどんな方でも利用ができ、川で楽しむことができる。このことがきっかけになり、色々なイベントが計画され、私も多摩川に足を運ぶようになりました。

たくさんの方々から、多摩川に纏わる色々なお話を聞かせていただいたり、ゴムボートに乗せていただいたり、台風の後の川原の様子、等々この2年間で何も知らなかった川を、勉強させてもらいました。

このことによってまわりの、たくさんの方々に、声をかけやすくなったことは、私にとっても素晴らしいことです。

今は、イベントの計画を立てる側にいるのだが、イベント当日になると、私自身がおおいにその一日を楽しんでいることは間違いない。

ただ、自然の力の恐ろしさ・厳しさは、はかりしれないものがあると思う。

この頃は、電車に乗っていて雨が降った時など、ふう〜と身を乗り出して、川の様子を見たり、晴れている時は、川原で遊びたいなどと、車窓から見る思いもかわってきている。われながら、すごい進歩だ・・・。

最後に思い出したことがある。あるボランティアと話をしていたら多摩川漁業組合の話がでた、その時私は、まったく知らなかったので「そんな組合本当にあるのですか？」一瞬し〜んとなった。

よみがえ

甦れ！多摩川

■大栗川を歩く■

(多摩川合流点～大栗川上流端)

関戸橋を渡り、多摩川右岸を下流に向かって、多摩第一小学校、市営グラウンドをすぎて交通公園につく。徒歩で関戸橋から1キロばかりのところである。そのあたりで大栗川は多摩川と合流する。地図によっては乞田川と大栗川が混在している。表示された交通公園の占用表示には「大栗川左岸」となっている。

右岸は桜ヶ丘カントリークラブのゴルフコースの丘陵のふとこにそって流れている。

丘陵の斜面は北側なのでまだ雪が残っている。

セキレイが尻尾をふりふり何羽か飛んでいる。多摩中学校の前を通る。校庭でサッカーの練習をしている。報恩橋を過ぎ、向ノ岡大橋をくぐりぬける。向ノ岡大橋は現在工事中でシートに覆われている。枯草のひっかかった立ち木が異様な感じで立っている。たぶん大雨で冠水して水がひき草木が残されている様子である。ここで乞田川は左へ、大栗川は右へ分かれてゆく。河川管理境界の標識は、これから上流の乞田川は東京都南多摩東部建設事務所が、下流は建設省京浜工事事務所多摩出張所が管理していることを示している。この辺の水はたいへん濁っている。

鎌倉街道の新大栗橋を渡って、左岸にそって側道を進む。すぐ大栗橋になる。橋の横では重機が盛んに老朽化した護岸の補修工事をおこなっている。すこし先へ行くと、釣り人が二人。所在なげに糸を垂れている。いったいなにが釣れるのだろう。

流れはきれいであるが、川底は泥がかぶっておりぬかるみようになっていそう。両岸はすっかり住宅化しており、高層のマンションなどもよくみかける。川のむこうには聖蹟桜ヶ丘の市街地がみえる。霞ヶ関橋、東寺方橋の間では重機が川にはいつて河川防災工事が行われている。老朽化した護岸を補強するための工事だが、川幅のほとんどをつぶしておこなわれるのだから、その生き物の生態系がもとのように回復するにはかなりの時間がかかりそうである。

マガモが五、六羽泳いでいる。明神橋のほりには明神橋公園がある。小さな公園だが、なかなかよく手入れが行き届いている。それもそのはずで「啓光学園リサ

イクル部」が日常的に清掃、管理をおこなっている旨の看板が立てられている。

宝蔵橋は護岸工事とともに橋の塗装工事もおこなっている。童女をつれた男性がつり竿をついでいる。新堂橋あたりでは娘さんが四人ばかりキャアキャアって袋菓子を食べながらカモをみている。今日は晴れていて、暖かく、心も弾むのであろう。

並木橋、殿田橋、久保下橋と過ぎて行く。

久保下橋の上流左岸の雑木林には粗大ごみがいっぱい捨てられている。洗濯機、自転車、車のバンパー、ホイールキャップ、タイヤ、電気ストーブ、扇風機、電子レンジ、スクーター、テレビ、なんでもありだ。

このへんで大栗川は多摩市から八王子市へ入る。

管理境界の標識があり、多摩市のほうは東京都南多摩東部建設事務所が、八王子市のほうは西部建設事務所が管理することとなっている。

横倉橋、望地橋、宮田橋と野猿街道にそってゆるやかなカーブを描きながら川は流れている。、堰場橋では多摩都市モノレールの「大塚・帝京大学停留所」が工事中である。

常盤橋、新川橋、下の川橋、東中野橋、洗馬川橋、番場橋、新道橋、大栗川橋、峯谷戸橋、内田橋、大竹橋、さんもり橋、山下歩道橋、富士見橋、大片瀬歩道橋、大田平橋、これらの橋の下を流れる大栗川は、直線のコンクリート護岸と高水敷の芝生の植生とからなる堅固な建造物である。面白くもおかしくも無い単調な景観である。まあ、川というよりは、水路といったほうが早いだろう。

前田橋あたりの野猿街道は、けやきの並木が植えられており、けやきの剪定についての説明が詳しく掲示されている。住民から剪定のたびに注意をうけるので、ここではっきり説明しておこうという意志がみてとれる。

メ切橋、池の尻橋、協力橋、日影橋にいたる。

枯草が川岸に打ち上げられて汚らしく積みあげられている。

神明橋、柏原橋、境橋にいたる。狭い川のなかに瀬ができており、雑草が枯れている。

嫁入橋、御殿橋と行く。御殿橋のところから「絹の道」が北西に上がって行く。このあたりから大栗川は三つくらいに分岐して、小さな流れになり家並み、山へと分け入って、消えて行く。

かわ せみ 翠

案内図



財団からのお知らせ

〈研究助成報告書完成〉

助成集報 (26巻) 並びに多摩川環境調査助成集 (第19巻) が完成しました。

助成集報26巻

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川上流の谷口における山風の吹送と市街地の大気環境との対応	佐藤 典人	法政大学文学部地理学科教授
神奈川県から多摩川流域・東京湾へ流入する排水量の変遷	原 美登里	立正大学大学院生
多摩川河川水の発泡特性の分布と変化に関する研究 — 20年前と比較 —	安部 喜也	東京農工大学農学部教授
多摩川流域における水生植物の水質浄化機能の評価とその強化手法	細見 正明	東京農工大学工学部助教授
多摩川底質中に含まれる鉄の化学状態を指標とした環境特性評価に関する研究	松尾 基之	東京大学大学院総合文化研究科助教授
奥多摩湖における浮遊微生物群集の動態と物質循環に果たす役割	占部城太郎	京大学生態学研究センター助教授
多摩川水系のトビケラ相とその分布	片桐 一正	元、東京大学農学部教授
窒素安定同位体比法を用いた多摩川の窒素汚染と浄化作用に関する研究	熊澤喜久雄	東京農業大学教授
多摩川上流域の肉食菌類の分布調査 — 日本で再発見されたワムシ捕食性水生菌 Zoophagus tentaculum の光学、および電子顕微鏡的研究 —	犀川 政稔	東京学芸大学教育学部助教授

多摩川環境調査助成集第19巻

研 究 課 題	代表研究者	所 属
多摩川水系のムカシトンボの分布と生態	大森 武昭	元、江東区立南砂中学校教諭
多摩川中流域に分布する上総層群の古環境と氷河性海水準変動の教材化	藤井 英一	東京都立晴海総合学科高等学校教諭
魚の病気と水質データに見る平井川の汚染	布谷 和代	みずすましの会会員
多摩川における青少年のあそびと環境教育の研究 — 一次世代の多摩川の守り手を育てる —	千葉 勝 吾	東京都立田園調布高等学校教諭

▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

● 「父親の進化—仕組んだ女と仕組まれた男」
著者 小原嘉明 1998年 (株) 講談社

著者の専門「動物行動学」の見地から動物、野鳥、昆虫等のオスとメスの生態特性と進化を事例に基づき検証し、人間の男はなぜ子育てをするようになったのか、父親の進化のメカニズムの謎を解き明かす。

● 「天竜川散策絵図」

作・絵 松村 昭 1998年
アトリエ77 (TEL: 0423-64-4441)

本絵図は天竜山の源流から河口までの213kmを幅20cm、長さ290cmの紙面に川の流路を中心に周辺の自然景観、構造物(道路、鉄道、橋、堰、施設等)動植物の生息状況等を描いたイラストマップである。本絵図の他に多摩川、野川もある。

財団のホームページを開設

URLアドレス : <http://www.246.ne.jp/~tokyuenv/>

昨年12月1日に当財団のホームページを開設いたしました。概要を紹介します。

●多摩川現風景

本誌1頁「多摩川現風景」を転載しています。多摩川流域での恒例的な行事、親水施設、自然景観等を現在の風物詩として紹介しています。

●多摩川へいこう！

財団で発行した環境学習副読本「多摩川ジュニアガイドー多摩川へいこうー」のダイジェスト版として紹介します。

内容は多摩川の特徴的フィールドとして、水源林、奥多摩湖、むかしみちと鍾乳洞、御岳溪谷、羽村堰と玉川上水、秋川溪谷、拝島橋付近、浅川、大丸用水堰付近、登戸付近、二子玉川、野川、調布堰付近、六郷橋付近、大師河原の15ヶ所を取り上げています。

●今日の多摩川

二子橋周辺の多摩川の様子を随時紹介します。東急新玉川線二子玉川園駅ホームより眼下の多摩川を写真に撮ったり、兵庫島河川公園、多摩川本川まで出向き四季おりおりの様子をお伝えします。

●研究募集要項

多摩川及びその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究を毎年募集しています。研究対象者、研究対象テーマ、応募方法等を記載しています。

●研究成果リスト

当財団が1975年より毎年研究助成した研究成果報告書のタイトル一覧を発行年度毎に紹介します。現在までの収録件数は学術研究188件、一般研究107件です。

なお、成果報告書は財団で閲覧、貸し出ししています。また学術研究書は都立多摩図書館、神奈川県立川崎図書館、一般研究書は多摩川流域の公立図書館等へ配布しています。

●財団からのお知らせ

本誌で掲載している、財団の事業活動や多摩川に関するニュースを紹介します。

●LINKS

多摩川に関連した団体、財団法人等のホームページにリンクします。(現在10件をリストアップしています。)

とうきゅう
環境浄化財団

What's New
このホームページの履歴情報を公開しています。

We Love Tamagawa!
多摩川現風景
多摩川における現在の風物詩を紹介します。
多摩川へいこう！
多摩川の特徴的フィールド15箇所を紹介します。
今日の多摩川
二子橋周辺の多摩川の様子を逐次紹介します。

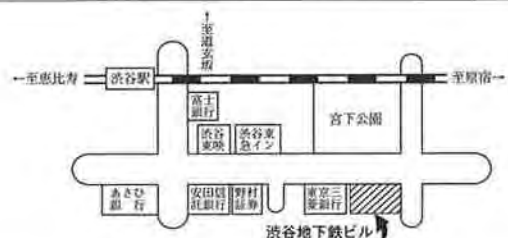
For Researchers.....
研究募集要項
多摩川に関する研究を募集しています。
研究成果リスト
1979年度より各年度の研究成果報告書のタイトル一覧を紹介。

From Our Foundation
財団の概要
とうきゅう環境浄化財団ってどんな財団です。
財団からのお知らせ
財団の事業活動や多摩川に関するニュース
LINKS
多摩川に関連したホームページ等へアクセスできます。

000550

財団法人 とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目16番14号(渋谷地下鉄ビル)
電話 03-3400-9142 代表 03-3400-9142
email: tokyuenv@246.ne.jp

- 発行日 平成11年3月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125